

ひまわり在宅サポートグループ 中央介護支援センター

村田 志保子(介護支援専門員)

功 績	全介助の状態ですべて養護老人ホームに入居するご利用者の「一人で暮らしたい」という願いを叶えるため、行政・施設・地域のサービス事業者を巻き込み、幾多の課題を乗り越えて支援体制を構築。困難と思われた在宅復帰を実現し、ご利用者の尊厳と自分らしい暮らしを支える地域連携の可能性を広げた功績。
推薦者氏名	木原 千恵 (中央介護支援センター / 所長)
推薦理由	「一人で暮らしたい」という利用者の切実な願いを諦めず、行政・施設・地域の関係者を巻き込み、困難な在宅復帰を実現した情熱と行動力は高く評価される。ご利用者の尊厳と自己決定を大切に、地域の力を結集して新たな可能性を切り拓いた姿勢は、健育会グループの理念を体現するものであり、理事長賞に推薦する。

内 容

令和8年4月、特別養護老人ホームから、全介助の状態にあるご利用者の在宅復帰について相談を受けた。看護師として働いていたご本人には「もう一度、一人で暮らしたい」という願いがあった。しかし、身体状況や住まいの確保、介護体制の構築など課題は山積し、ご本人も関係者も大きな不安を抱えていた。

村田主任は、困難を理由に諦めるのではなく、「どうすれば願いを実現できるか」を考え、施設職員やご家族と協議を重ねた。その姿勢にご本人も勇気づけられ、「皆さんの話を聞いていたら、できそうな気がしてきた。手伝ってほしい」と思いを託された。

その願いに応えるべく、村田主任は市役所の障害福祉課へ何度も足を運び、障害福祉サービスの利用枠を確保。介護保険サービス事業者や関係機関との調整を繰り返し、地域の力を結集して支援体制を築き上げた。さらに、ご本人と新居を見学し、具体的な生活を共に描きながら準備を進めた。ご本人も体力づくりや移乗訓練に励み、初回面談から数か月後、ついに一人暮らしが実現した。

新生活では転倒による救急搬送もあったが、村田主任は現在も関係者と連携し、暮らしを支え続けている。

ご本人の次なる目標は「近くのコメダ珈琲まで一人で行くこと」。

一人の願いを原動力に地域を動かし、不可能と思われた暮らしを実現させた、情熱と行動力にあふれる取り組みである。